

特277

978

特277-978



*76W10919 *

金解禁に就て

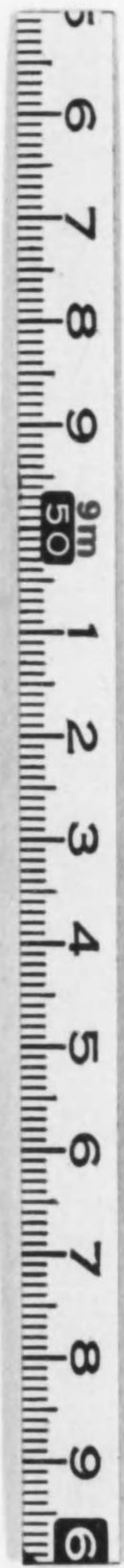
忠三氏講演

477

月

曜

會



始



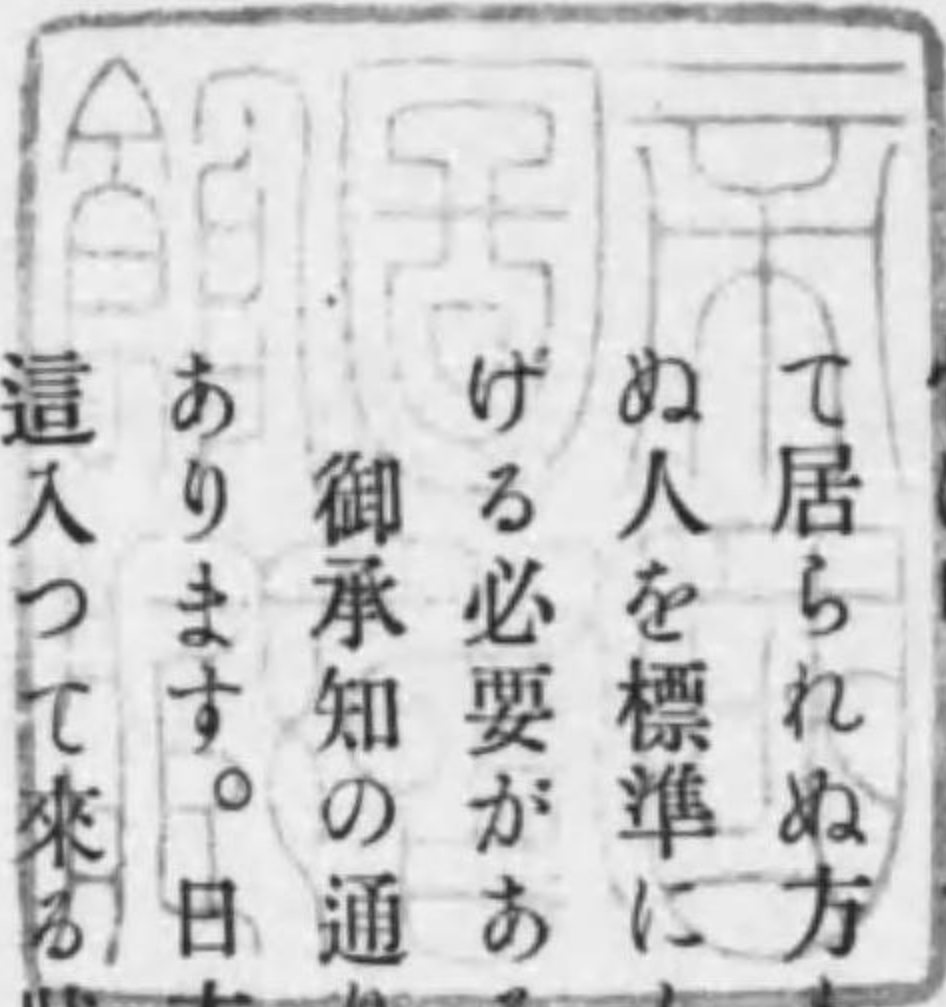
76W10919



上野乙子
著 議

月曜會の諸君が現下の最も重大問題たる金解禁の問題に付きまして研究されて居ると云ふことで、私にも出て大體の話をして呉れと云ふお話でありまして喜んで出た次第であります。極く御懇意な方々ばかりでありますから露骨に申しますと、金解禁と云ふ問題を相當にお分りの方もあるし、餘り分つて居られぬ方もあるだらうと思ひます。故に丁度學校の教授見たやうに分らぬ人を標準にしてお話するより仕方がない、そこで先づ爲替の根本から申上げる必要があると思ひます。

御承知の通り歐洲戦争が始まりましたから各國共金の輸出を禁止したのであります。日本は戦争に参加して居らなかつたのみならず、正貨はどん／＼這入つて来る状況でありましたから金の輸出を禁止をする必要はさうなかつたのであります。大正六年の九月に亞米利加が金の輸出を禁止した。そこで亞米利加のやうな國が金の輸出を禁止する以上は日本も黙つて居られぬと云ふので、其翌月の十月に大藏省令を以て金の輸出を禁止したのであります。輸出禁止と申しますけれども、條文を御覽でありませうが特許制度にし



たのであります即ち、金を輸出する時分には政府の許可を要すると、云ふこととでありまして、外國へ旅行する人が百圓までの金を持つて行つて宜しいが、其以外のものは一切輸出することを許さぬことにした。同時に金貨を鑄造すことと云ふことは金塊を持出す處がありますから、鑄造しと云ふ行爲を自身も禁止したのであります。それで世界各國共金の輸出禁止を致しましたが何處の國も大體法律に根據を置いて、その委任權限に於て或は勅令、或は亞米利加などは大統領令によつたのであります。即ち法律の委任に依り時期方法等を勅令若くは大統領令で規定したのであります。即ち日本は大藏省令でやつたのであります。金の輸出が自由である場合即ちノーマルの場合に於きましては金と金との比價に依つて爲替相場が決まるのであります。日本の圓を含んで居る金の純分量と、亞米利加の弗の含んで居る金の純分量とを比較すると、丁度日本の百圓が亞米利加の四十九弗八十四仙に當る。之を稱して純分比價と云ふのであります。即ち純粹の分量を比較した値と云ふことであります。此純分比價は標準でありますが、併し日本から金を持つて行つて拂ふ

と云ふ場合にはそれに対して持つて行く迄の運賃、保険料、利子と云ふものがこちらの負擔になる、それは時の金利、運賃、保険料に依つて違ひますけれども、大體五十仙、先づ日本の一圓だけこつちの負擔になるのであります。又向ふがこつちへ持つて來れば矢張それだけ向ふの負擔になる、さうすると四十九弗八十四仙の中から持つて行く費用の五十仙を差引きまして受取るのは四十九弗三十四仙と云ふことになるのであります。即ち金を現送して持つて行つて弗に換へた場合の正味の受取高がさうなる、故に四十九弗三十四仙と云ふものを稱して圓の現送點と云ふのであります。だから金の輸出が自由な場合に於きましては爲替が不利であれば日本銀行へ持つて行つて兌換をして貰つて金を持つて行く、金を持つて行けば四十九弗三十四仙貰へるのだから、それを中心にして爲替相場が上下するのであります。即ち亞米利加から日本が受取る勘定が多くなればそれより少し圓が高くなり、日本からの支拂勘定が多くなればそれより圓が少し安くなる、大體に於て其邊を動くのであります。然るに金の輸出を禁止して居りますと金を現送することは出来ませぬか

らして、こつちに支拂勘定の多い時分には何處まで下るか分らぬ、又こつちに受取勘定が多い時分には何處まで上るか分らぬ。一時戦時中に日本の一番受取勘定の多かつた時には五十弗を越したことがある。然るに戦争後の大正十三年の末頃には三十八弗半まで下つたこともありす。そこで何故金解禁と云ふことを焦るかと申しますと、金輸出を禁止して居りますと爲替相場が始終動く、其爲に事業をやりましても商取引を致しましても算盤が採れない、従て安心して仕事が出来ぬと云ふ爲に金解禁を早くやらなければならぬことになるのであります。

さて歐洲戦争中世界各国悉く金の輸出を禁止して居りましたが、戦後に於きまして一番先に亞米利加が解禁を致しました。亞米利加は日本の大正八年（千九百十九年）六月に解禁を致した即ち大正六年に禁止して僅か二箇年足らずで解禁したのであります。英吉利は世界の金融の中心であると云ふ關係と、外國に對して債權を澤山持つて居りますのと、それから所謂ナシヨナル・ブライドと、此三つの點からして成るべく金の輸出を禁止しないと云ふ

方針でありました。併し事實に於きましては禁止と同様なことをしたのであります。英蘭銀行は事實金の兌換をせぬ、それから貿易商人などに能く諒解を求めて金の輸出をさせぬことにした、あゝいふ場合であつたから事實上立派に禁止が出来て法令上には禁止をしないと云ふ態度を取つたのであります。然るに段々やり切れなくなつて来て、却て亞米利加が輸出の禁止を解いた年、即ち日本の大正八年に至つて法令を以て英吉利は輸出を禁止したのであります。さうして英吉利のは、千九百二十五年の十二月末日限りといふ期限付で、禁止をしたのであります。それを解禁した場合に於きましては、千九百二十五年の四月に丁度ウエストン・チャールズ氏が大藏大臣として當時の豫算演説を議會に於てする時分に、此禁止の期間を延ばさぬと云ふことを聲明し、同時に事實上兌換を始めたのであります。英吉利や亞米利加は先づ大體に於てさう故障なく金の輸出禁止を解くことが出来たのであります。他の國は中々さうはいかぬ。そこで佛蘭西とか白耳義とか伊太利のやうな國は御承知の通り平價切下をやつた。即ち爲替が非常に下つてしま

つて再び平價にまで回復するのを待つて金解禁をすると云ふことは全く不可能といふ情態に陥つた、そこで第一白耳義では、その法貨は矢張法でありませんが、其法が平常の相場の七分の一に下つてしまつて、どうしても頭が上らぬ、そこで止むを得ず七分の一に平價を切下げた、それはどういふ風にしたかと言へば貨幣法を改正して法貨の名稱を變へて今までの法と云ふのを止めてしまつてベルガと云ふ新貨幣にしたのであります。さうして其のベルガと云ふ新貨幣は元の法の七分の五の金を含んで居ることにした、七分の五の金を含んで居る其一ベルガと元の法の五法とを換へますと云ふと、丁度分數で勘定して七分の一になるのであります。佛蘭西は法が五分の一に下つたのであります。そこで平價を五分の一にして法と云ふ名稱は變へないが、元の法の含有金の五分の一のものにしたのであります。伊太利の法貨はリラであります、其リラが元の二割八分に下つたのであります、其相場で以て矢張名稱を變へずして平價切下をしたのであります。佛白伊等の國々は斯う云ふやうな順序で平價を切下げて金解禁をやつたのありますが、平價切下の最も極

端なのは獨逸であります。獨逸は馬克といふ名稱は捨てないが、元の馬克は一兆分の一といふ非常な下落でありましたから元のまゝの馬克と云ふ名前ではいかぬから、形容詞を附けてライヒス・マークと云ふ名前にして、元の一兆馬克を一ライヒスマルクに兌換することにして金解禁を行つたのであります。さう云ふやうな色々苦しいことをして各國共大體金の解禁をしたのであります。さうして今日残つて居る主なる國としては日本と西班牙とであります。小さい國を申しますと葡萄牙とかチエツコスロバキヤと云ふやうなものがありますけれども、先づ主なる國としては日本と西班牙だけであります。世界各國が金の輸出禁止をして居つた場合には、世界の或る方面に經濟上の變化が起つてもさう大した影響はなかつたのであります、今日は残つて居る國が少くなりました爲に、世界の隅に經濟上の變化が起りますと、それを材料にして圓に向つてスベキュレーションが行はれるのであります、我國の圓貨が爲替上のスベキュレーションの最も主なる對象物になるので、圓の爲替相場のフラクチュエーションが各國が金の輸出禁止をして居つた場合よりは非

常に多くなつた。之が又早く金の輸出禁止を解かなければならぬと云ふ必要の迫つた所以であります。

そこで金解禁と云ふことは非常に急ぐことである。即ちアブノーマルのものをノマルに引戻して、さうして爲替相場を安定せしめなければ採算が採れないから事業が旨く興らぬ、之が不景氣の原因にもなつて居る、斯う考へられますからして、どうしても早く金の解禁をして貰ひたいと云ふ希望が起つて来る。殊に大きな銀行から申しますると、此問題は非常に急ぐのであります。何故ならば一昨年の金融界の大恐慌の爲に多數の銀行が信用を破壊されて、極く小數の大銀行が非常に信用が高まつた結果として多數の銀行の預金が非常に減つて来て、其預金が多く大銀行に集つたのであります。日本で六大銀行と申しますと、東京で三井、三菱、安田、第一、大阪で住友、三十四の六銀行で、五大銀行と云ふときは三十四を省いて言ふのであります。今日の實狀から申しますと此六大銀行に多く預金が集りました。それから政府の郵便貯金がどん／＼集つて來ました。小口の預金を引出して郵便貯金に持つて行

く、之が非常なものであります。又有力な信託會社に對して金錢信託をする、之が又相當多額に上つた。そこで先づ政府の預金部とか或は信託會社は別と致しまして、大銀行で考へますると、三菱にしても三井にしても第一、安田、住友にしても非常に澤山の預金が集つて來たが、さて經濟が不安定でありますからさう貸出が自由に出來ない。それで確實な借り手に對しては互に競争しますから金利が非常に安い、紡績手形が一番手形割引と致しましては確實なのですけれども、紡績手形に對しては日歩八厘だの九厘だのと云ふやうな安い割引を致して居るのであります。之に反して中小商工業者や地方の農民などになりますと、信用がありません。之に反して銀行が貸さない貸すとしてもずるぶん高い金利を拂はなければならぬ、故に金利が一面に於て非常に安く一面に於て非常に高いと云ふ現象が起て居る、是は何時でも信用が破壊された時に起る現象であつて、世界各國の經濟上の歴史を見ましても何處でもさうであります。さう云ふ面白からざる現象が現在起て居るのであります。大銀行から申しますると多額の預金が集つて來て貸出の方法が付

かぬ、公債を買つて置けば宜いと云ふので公債も相當に買ひましたが、公債も金解禁をした場合には金利關係等の爲めに自然下ることになる。公債が一割下ると一箇年持つて居つて五分や五分餘りの利子を取つても追つ付かぬと云ふことになる、そこで之も考へ物であると云ふので公債も餘り買へない、止むを得ず日本銀行へ持つて行つて無利子預金をして居るのであります。日本銀行に在る普通銀行の民間預金と云ふものは此頃は四億圓以上になつて居る、是は月末と月央で餘程違ひます。月末になると決済資金が多く要るので餘程引出しますがそれでも此頃が二億五千萬圓位より減らないといふ情勢であつて、斯う云ふことでは大銀行として算盤が持てない。それで金解禁を致しなるとどうなるかと言へば、金解禁をすれば正貨は流出る、正貨が流出れば金融が逼迫する、金融が逼迫すれば金利が高くなる、さうすれば銀行としては勘定が好くなる、そこで一番金解禁に熱心なのは大きな銀行家でありませぬ。大きな銀行家は敢て利己心ではありませぬけれども自分の業態を考へると云ふとそれが最も必要なやうに考へられる。而も斯う云ふ銀行をやつて居

る資本家は同時に大きな事業家であつて。其自分のやつて居る事業と云ふものは金解禁に堪へる、暫く我慢すると云ふことは出来る、故に三井にしても三菱にしても金解禁をしても他の者も皆堪へるだらうと云ふことを自分本位に考へ易い。所が實際小資本を以て小さい仕事をして居る人、或は大變な借金をして事業を經營して居るいはゆる借金を以て泳いで居るやうな人は、金解禁の爲に公債は下る、有價證券は下る、物價は下ると云ふことになり、それから非常に苦しい、だから此方面の人は多く金解禁に反對するといふことになり、なりませぬ。

是までは在外正貨が相當に澤山ありましたから、金の輸出を禁止して居りますけれども海外拂の足らぬ時分には在外正貨を賣つてやる。政府若くは日本銀行の持つて居る在外正貨を正金銀行に賣つてそれで輸入資金を造らせる、と云ふことになつて居つたから、自然爲替相場の調節も出來たが在外正貨は段々に減つて參りました。今年の四月初で先づ九千二百萬圓しかない、九千二百萬圓と言ひますと、只今政府の一箇年の海外拂に當る、而して一面に於

て亞米利加が非常に金利が高い、従て倫敦も金利が高い、外資を輸入すると云ふことも亦困難であるから正貨補充の途が付かぬであらう、斯う云ふことを玄人筋では見越して居りますから、それが爲に爲替が押へられることになる。

然らば金解禁をしたならばどう云ふ影響を被るかと申しますると、假に四十五弗の相場の時に金解禁をすると云ふと直に先刻申す通り四十九弗三十四五仙の相場に急騰する即ち爲替が一割急騰することになる、金の輸出を禁止して居ない常態の下に於ては四十九弗三十四五仙の現送點に近い爲替相場が出て来るものが、四十五弗に居ると云ふことは一割程内地の産業が保護されて居る、總てに對して關稅が一割掛けられて居ると同様になつて居るのであります。所が金解禁をしますると一割だけ圓の相場が高くなるから、百圓持つて行つて四十五弗ほか貰へないものが今度は百圓持つて行けば四十九弗三十四五仙貰へますから、一遍に圓の購買力が一割高くなる、従つてそれだけ外國品が安く輸入されることになる、外國品が一割だけ安く這入つて来るこ

とになると、それだけ内地の製品の相場を下げた利益を少くしなければならぬ、斯う云ふことになりますから其打撃が随分大きいのであります。

次に金解禁をすると云ふと日本のやうな輸入超過の國に於ては海外の支拂が多いからして、どしどし金が流れ出て行く、金が流れ出て行くと通貨が縮小し、金融が逼迫して金利が高くなる、金利が高くなると云ふことが第一に事業に非常に影響を及ぼす、第二には此兩方の影響に依りまして事業家の資産として居る所の株券、公債等が下る、さうなれば擔保物件が下りますからして増擔保を出さなければならぬ、斯う云ふことから事業に打撃を受けるのであります。併し國民全體に經濟上の此理窟が能く分つて居りさへすれば算盤上當然起るべき打撃の程度で濟む譯であります固より正貨がどれだけ流れ出るかと云ふことは分りませぬけれども、爲替が一割上る爲に物價が一割抑へられる、金利も大體から見ても六分のもものが七分になると云ふやうなことで、算盤をやつて見ればどう云ふ影響を受けるかと云ふことは分る。さうして國民皆にそれが分つて呉れ、ばそれだけの影響に止まるのであります。所が國

民の大多數は經濟上の知識がない、それであるからそれ以上に人氣で以て影響が大きくなる、即ち金解禁をすれば物が下るのだ、商品も下れば有價證券も下る、下るのならば今の中に賣つて置かなければならぬ。といふので皆が賣に廻る、さうなつて來ますと、何處まで行くか分らぬ、斯う云ふことで實際マセマテカリーに考へるより其時の人氣に依つて經濟上の打撃が遙に大きくなるといふことが恐しいのであります。それで日本の海外拂がどうなるかと申しますると、貿易の状態は段々好くなつて來て居るのであります。歐洲戰爭中に大正四年から五年六年七年と此四箇年間で云ふものは大變な輸出超過でありましたが八年からは輸入超過になつて居ります。併し此の輸出入の外にはゆる貿易外の受取勘定といふものがあります其の主なるものを申しますと船の運賃とか保険料とか、或は外國へ投資してある資本の配當利子とか或は外國人が日本に來て落す金、外國の船舶が日本の港で物を買ふ代金とか、外國に居る移民の本國への送金、さう云ふものを差引勘定して日本の受取勘定が相當多いのであります。是が一時は非常に多かつて近頃は減つて居

りますがそれでも尙相當の額に上るのであります。歐洲大戰中は輸出超過であつた上に貿易以外の受取勘定が相當多額にありました爲に澤山の正貨が出來たのであります。其中で海外の債務を拂つたり或は海外へ貸付けたりしたものもありまして、兎も角大正十年の末には二十一億八千萬圓と云ふ正貨を持つて居つた。其中十三億圓は海外に置いてあつた、是が即ち在外正貨と稱するものであります、それが段々減つて參りました本年度初には先刻申す通り九千二百萬圓しかなかつた其の後政府は海外拂をして居りますから更に減るはずであります、實際はさう減つて居らぬやうであります、それは金解禁期待の爲に圓爲替が急に騰貴するのを抑制する爲に弗爲替を買はせてそれを以て支拂に當てるからであります。

貿易は近年大體に於て多少づ、好くなつて參りました。震災の翌年の大正十三年の如きは内地と植民地とを併せて七億圓以上の輸入超過であつた、所が一昨年は二億九千萬圓程であつた、昨年は三億三千萬圓、今年はどうなるか、今年は多くとも一昨年位になるだらう或はそれより尙減少するであらう

と云ふ見込であります。さう考へて見ますると内地と朝鮮、臺灣を併せて先づ輸入超過は三億圓それに對して貿易以外の受取勘定の一億五千萬圓を差引くと一億五千萬圓程足らぬ、併し貿易の表を見ますると、輸入超過は幾らと出て居りますが、其中實際に於ては輸入の方は正味で現れて居るが輸出の方は正味でないであります。何時でもあの現れて居る數字よりも實際受取勘定の方が多い、近頃は段々と正確になつて來ましたが、それでも五千萬圓位は多いのであります。であるからあの表で差引いたものよりも實際に受取るものが五千萬圓程多いのであつて。詰り一億圓だけは足らぬ、一億圓だけはどうしても海外に拂はなければならぬと云ふことになるのであります。併しながら是は今までの爲替相場の安い時分ですうであります、金解禁をして爲替相場が回復した場合に於ては、先刻申す通り外國品が安く付きますからしてどうしても輸入が促進されて輸出が阻害される、斯う云ふ關係からして、もつと多く正貨は流れ出るかも知れませぬ。其上に茲にもう一つ考へなければならぬことは是まで長い間に於て日本の金利が亞米利加よりも高いと

いふのが普通で日本の金利が亞米利加の金利より安いと云ふことはなかつた。所が昨今御承知の通り亞米利加の金利が非常に高い、準備銀行の公定割引歩合を最近五分から六分に引上げた。亞米利加は投機熱が旺盛でありまして、之を抑へる爲に準備銀行は金利政策上引上げましたけれどもそれでも應へない、準備銀行の金利が六分でありますから日本の金利よりもずっと高い。殊にコールの日歩の如きは一割乃至一割五分と云ふ高歩であります。ちよつと日本では考へられぬことではありますが、株式仲買人に對する仲買貸付と云ふものは現在亞米利加では六十七八億弗日本の金で百三十五六億圓の多きに上つて居るのであります。日本と亞米利加とは組織が違ひまして、株式取引所の資金と云ふものは何時もコールに求める、外の普通銀行はコールを取りませぬ。大體コールと云ふものは株式市場で使ふと云ふことになつて居ります。普通の場合でも相当多額のコールを吸収して居りますが、今日では一割から一割五分位の日歩で借るのであります、それでどん／＼儲かるのであります。一昨日私が亞米利加の近狀を書いた雑誌を讀んで見たのでありま

一八

すが、一億弗も二億弗も儲けた人さへあるらしい、中には儲けたので自分の運轉手に三十萬弗やるから一生家に居らぬかと云ふやうなことを申す者もあるやうなすばらしい勢ひであります。此間財務官の津島君が歸つて來ての話に、太西洋を横斷する時分に船の中で無線電信で相場をやつて居るものが随分多かつたさうであります。斯う云ふ譯でありまして亞米利加の金利は中々高い。亞米利加の金利が高ければ英吉利の金利も自から高くなる、英吉利と亞米利加とは非常に密接でありまして、所謂クロス・レート、磅と弗との相場、それは太西洋を横斷する相場、アトランティック・オーシオンをクロスするレート、即ちクロス・レートで之が世界の金利の根幹になつて居る。亞米利加の金利が高いと直に英吉利から金を持つて來る、英吉利が高いと又直ぐに亞米利加から英吉利に金を送ると云ふことになつて居ります。又倫敦と巴里の間もさうであります。亞米利加が金利を上げると英吉利も自衛上金利を上げなければならぬ。英吉利では金利を上げると云ふと通貨が縮小して物價が下る、物價が下れば不景氣になつて失業者が増加すると云ふので、此

の頃は非常に心配して居る故に中央銀行としては出來るだけ金利を上げたくない。英蘭銀行の總裁モンテীগ・ノルマンと云ふ人は態々亞米利加に行つて色々話をしたのでありますけれども、到頭話が付かないで亞米利加の準備銀行は前に述べたやうに金利を上げた。それで英吉利も止むを得ず上げねばならなくなつた右のやうな情勢であるから亞米利加の金利高と云ふことは相當に續くものと思はなければならぬ。さうすると茲に金解禁をすると、向ふの金利が高いから、従て日本で直に資金の需要が起らぬとすると、大銀行などは日本銀行へ無利子で預金をして居るよりも、採算上亞米利加へ送金してあちらで投資すると云ふ所作を始めるのであります。是は是まで度々やつて居ります。尤も是は無限に行くかと考へて居る人がありますがさうは行かぬのであります。と申しますのは亞米利加へ持つて行つてコールに金を貸すと云ふことは出來ませぬ。又亞米利加で確實なる他の國の公債とか社債とかを買つて見ても是は利廻が好くない、安全で利廻の好いものは日本の外貨證券であります。即ち震災後に發行した六分半利付公債、それから東京市債、横濱

市債、滿鐵社債、東京電燈社債、といふやうな日本物を買ふのでありますが日本物の市場と云ふものは非常に狭いのでありますから、少し買ふと直ぐ上る、上れば利廻が悪くなるからさう無制限に正貨が流出するやうなことはないけれども相當の額は出て行くものと見なければなりません。斯う云ふことで普通貿易及貿易以外の收支勘定に依つて國債貸借上支拂ふべき金額の外にさう云ふ思惑の投資が行はれる。

此の如き關係に於て悲觀的に見る人は非常に多額の正貨が流れて行くやうに申しますが、さう澤山は流れ出る譯はないと思ふ、兎に角一億圓や一億五千萬圓は流れ出ると見なければなりません。それでありますからして政府としては最も苦しい立場にある。私共在官中にどう云ふことにしたら宜いかと云ふことを考へたのであります。在外正貨が少くなつて、さうして向ふは金利が高いから在外正貨補充の途がない、さうすれば正貨を現送するのの外ない、そこで現送を始めると云ふと何人が考へましても、政府は金解禁を決心したと見る、金解禁を決心したと見れば爲替は急激に上る、之が又非常に考へ

物であります。又其逆に海外拂を爲替で送金をする、即ち正金銀行にこつちで紙幣で拂つてそれで向ふで弗爲替を買はせることに致しますると、是れは亦政府は金解禁を當分やらぬと見るのであります。さうすれば爲替はウンと下る、丁度飛車取り大手見たやうになつて居るのであります。どつちもいかぬと云ふことになつて居るのであります。まだ決定して居りませぬでしたけれども、私共の考では兩方並行して、一面に於て正貨を現送する、一面に於て爲替送金をする。即ち正貨を送つて圓爲替があまり高くなれば弗爲替を買上るやうにして兩方を並行して行つて段々に爲替相場をズリ／＼上げて置いて、解禁するより外はないと考へて居つたのであります。是まで過去のことを考へて見ますと、憲政會内閣の濱口大藏大臣の時分からであつたと思ひますが、正貨の現送を始めた。あの時分には金解禁と云ふことをやつて一つ政府の手柄にしようと思ふやうな氣があつたかと思ひます。だから頻に演説などをして今と同じやうに濱口君などは言つて居つた。此内閣が出来てから財政の緊縮をすると云ふ、それで海外の信用が高まつてさうして輸

入超過は減つて来る、爲替相場は段々上つて来た、といふやうなことを言つて居りました、所が貿易の入超が減つて来ると云ふことは大正十三年に對してのことである。大正十三年に憲政會内閣が出来たのでありますが、其の年は震災直後であつたから貿易上の入超過額が驚くべき數字に上つたのであります。

震災の直後には復興の材料並に生活必需品を成るべく安く輸入すると云ふ積りで五十幾種の品物に對して關稅を撤廢したのでありますから、今の間に輸入せよと云ふのでどん／＼輸入して終ひには木材などは來過ぎて芝浦で雨晒しになつて居つた程であつたのであります。さう云ふことで大正十二年三年は非常な輸入超過であつた、即ち十二年が六億六千二百萬圓大正十三年が最も多くて七億二千五百萬圓の輸入超過であつた、それに對して減ると云ふことは當然のことであります。震災の復興の材料若くは生活必需品と云ふものは大體買つたのでありますから、之が段々減つて來れば放つて置いても輸入超過は減る、是は當然であります。それを政府の政策が良かつたから減

つたと云ふやうなことを言つて居たがそれは大變な間違であつたのであります。爲替も放つて置けば中々上るやうな情勢ではなかつた、大正十三年には七億何千萬圓の輸入超過であり十四年も、四億圓以上の輸入超過であつたのでありますから爲替が上るべき筈はない。然るに政府が爲替を引上げる爲に正貨を現送したので爲替が不自然に上つたのであります、此正貨の現送も随分思切つたやり方をしたのであります。正金を送らうと思へば幾らでも送れるやうに考へられますが、中々さうは行かぬ。非常に信用すべき日本の船に限つてやるのでありますから、一箇月に二回外送れない、一つの船に非常に澤山積むと云ふことは危険でありますから、大低一箇月二回で四百萬圓宛八百萬圓位外送れないのであります。故に此の最大限度の送り方をして一箇年に九千六百萬圓送れる譯であります。憲政會内閣ではそれをやつたのであります。是は片岡君の時代まで續いたのであります、左様なことをやれば爲替が上るのは當然であるに拘らず當時憲政會の人々はちようど今日と同じやうに政策宜しきを制し海外の信用が高まつて爲替が上つたのだと云ふ

宣傳をしたのであります而して爲替相場が此の如き人爲策に依つて不自然に急に上つたことが一昨年の金融界の恐慌を來した原因であります。神戸の鈴木商店が潰れたのも之が爲めである、川崎造船所が行詰つたのも之が爲めである。村井とか中井とか中澤とか其他色々な銀行や商事會社が潰れたのも皆之が爲めであります。即ち爲替が急激に上つたので日本の事業が何れも一時に非常なる打撃を受けたのであります。殊に一番困つたのは製絲家であります。製絲家は、繭を高く仕入れた後で爲替が上つて來たものでありますから、この爲に倒産してしまつた者が澤山ある。私が銀行を整理した時分に見ますると、關東から東北地方の内容の悪かつた銀行と云ふもの、大多數は製絲手形を多く持つて居つた銀行であります。さう云ふ譯で時の政府當局が金解禁を焦り過ぎた爲に財界の恐慌を來したのであります。而も此發意は今の井上君らしい、殊に片岡君に對しては井上君が軍師であつたらしい。段々に正金を送つて爲替を高くして置いて、さうして平價に近付けて解禁をする、同時に震災手形が銀行の癌になつて居るから之を片付けて置く、さうしさへ

すれば宜いと云ふので、相當反對もあつたやうでありますけれども、井上君が言ふのだから宜からうと云ふので、それを片岡君が採用してあの大失敗を演じたのであります。が到頭危ぶくなつて井上君は九州へ逃げたと云ふ話であります。斯う云ふ問題は決して黨利黨略とか政府の面目とか自己の虚榮心とか云ふものに依つてやるべきものでない。純然たる經濟問題でありまして當局者は神様見たやうな氣持でやらなければならぬのであります。

そこで今度政府は愈々近く金解禁を斷行することを強く聲明したのであります。一體から言へば、此金解禁の問題などは、政局が安定して、自分等の言ふ通りに事が行はれると云ふ基礎が立つた時分に、具體的に言ふのが本當である。政府黨は少數で、議會はどうなるか分らぬ、解散したつて負けるかも知分らぬと云ふ場合に金解禁を聲明しこれに對して財界に非難の聲を聞くのは當然のことです。兎もかくも陛下に上奏してまで近く金解禁をやるといふ意志を發表したのでありますから、世間は全く金解禁の氣分になつてしまつた。そこで、金解禁の時期は明言してありませぬけれども、最早今日

では何人も金解禁は遅くとも來年の五六月頃までにやると考へて居ります。獨り内地に於てのみならず、倫敦に於ても、紐育に於ても、上海に於ても、皆さう考へて居り、其見込みで總て算盤を採つて居るのであります。それであるが爲替相場はどん／＼上ります。來年の五六月頃までに金を解禁することになりますから、爲替相場が四十四弗代の所で圓を買つて置けば、來年の五六月頃になれば、必ず一割だけ儲かる。今亞米利加の金で四十四弗出せば百圓の圓爲替が買へる、それが來年の五六月頃になれば四十九弗半になつて歸つて來るのでありますから、今の中に圓を買つて置きさへすれば一割儲かる。斯ふ云ふ算盤をしますから、圓を買ふと云ふ氣が起つて來ます。それから輸入商人から申しますと、政府は金解禁をすると云ふ事であるから、段々に爲替相場が上つて來る。段々に爲替相場が上つて來れば、一日でも輸入を見送つた方が得だ、圓が高くなる一方であるから、圓が高くなつてから買ふ程得だと云ふので、皆輸入の取極めを見送ります。其反對に、輸出商人の方は早く賣つて置く方が得だ、亞米利加の立場から言ふと、生絲を弗の相場が高

い中に早く買つた方が得だ、四十四弗持つて來れば日本の百圓に當るのが、もう少ししたら四十九弗半と云ふのだから、段々遅れる程損だと云ふことになる。支那方面に於きましても、綿絲、綿布などを早く買つた方が得だと云ふので急に買進んで來ます。それですから、當分爲替はどん／＼上つて來る、同時に輸入超過はどん／＼減つて來る。是は當然であります。然るに大藏大臣は、政府は財政緊縮をしてさうして經濟の立て直しをやると云ふ事が海外の信用を得た、其海外の信用を得た爲に、他に何等の術策を施さずして、組閣以來一箇月にして爲替相場が三弗も上つたと云ふ自慢話をして居る。是は全く事實の曲解であり虚偽の説明である。何等の術策をも施さずしてと言ふが、政府が金解禁を一年以内に斷行すると云ふことを確信せしむるやうな聲明をすれば爲替相場が上るのは當然であります。然らば急に爲替相場が上つた爲にどう云ふ事になるかと云ふと、是だけで株式が暴落し事業界に一大打撃を與へる事になつた政府は一般會計の公債は一切發行せぬ。來年は一般會計特別會計を通じて五千二三百萬圓に止める、さうして公債償還の方は減

債基金特別會計法に依るもの剩餘金の四分の一を以てするものの上に獨逸の賠償金を公債償還に當てる。斯う云ふ事で、差引して見ると、八千萬圓以上毎年償還して、五千萬圓位公債を出す事になるから、毎年三千万圓以上公債が減つて行くと云ふ事を聲明したのでありますから、一體公債の価格は上らなければならぬのにどうも上らぬ。既に爲替が急激に上つたと云ふ事が財界に非常な打撃を與へて居る。のみならず將來が恐ろしくてうっかり手が出せないと云ふ事になつて居るのであります。それを全く政府の政策が良くて世界の信用を受けたから、何等術策を施さずして、組閣以來一箇月餘にして爲替が三弗以上たと云ふことを言つて居る。是は全く國民を欺くものだと思ふのであります。

それから、輸入超過はどん／＼減つたと云ふ事を言つて居りますが、輸入超過は、昨年と一昨年とを較べて見ますと、一昨年よりも昨年の方が多かつた。一昨年は内地だけで申しますと、一億八千六百萬圓、それが昨年は二億二千三百萬圓で、去年の方が殖えて居る所が今年はどうかと言ふと、今年の

上半期と昨年の上半期とを較べて見ますと、今年は輸入超過が多い。それはどう云ふ譯かと申しますと、昨年は上半期には非常に棉花の買付を見送つた。是は相場等の關係から買控へて居つたので、下半期になつて非常に買進したのであります。今年は其逆に、上半期に非常に買つて居るのであります。下半期になれば棉花の買付が非常に減つて来るから、七月頃を境とする輸出期に入ればもう輸入超過はどん／＼減つて行く状況になつて居る。輸出入の見込は正金銀行も之を調べて居りますし、三井物産の調べて居ります。私共の見込みと三井物産の調べとはどうなつて居るかと思つて本年六月に三井物産の調べを取つて見ました。三井物産も調べでは、本年は十二月末日迄に一億七千萬圓の輸入超過になる。即ち一昨年よりも減る見込でありました。一昨年は一億八千六百萬圓、昨年は二億二千三百萬圓だつたが、今年は一億七千萬圓に減る。斯う云ふ事が三井物産の調べに出て居るので、是は輸出品輸入品に就て相當精細に調べて見た見込みであります。正金銀行の調べも大體其通りでありました。そこで丁度内閣が變つたのは輸出期に向ふ時

分であつて、棉花は大體買付は一通り濟んで、是から生絲が出ると云ふ時分に内閣が變つたのであるから、是からどん／＼輸出が殖えるのは當然な事でもあります。金解禁と云ふ問題も何も言はずして輸入超過がどん／＼減つて來ると云ふ狀況になつて居つた。其處へ、金解禁が近くにあると云ふ事になつたものですから、先刻申す通り、先づ輸入品は見合せ、輸出品を早く賣つて置くこと云ふ事になつて來ましたので、此二三箇月の間はどん／＼輸入超過は減つて來る譯であります。其の上米國の經濟界は上半期豫想よりも一層好景氣で生絲の賣行がよく、價格も割合に高直を保つて居る又露支問題が勃發して支那は日本に對する氣兼ねから日貨排斥を抑止したといふやうな新しい事情が加つたのでありますから我が貿易の情勢は更に良好になる譯であります。併し茲に若し十二月に金解禁をすると致しますと、其金解禁後にはどうなるかと言へば、見送つて居る輸入をどん／＼初める。輸出はどん／＼出て居るのであるから減つて來る。其上に爲替相場の差額に依つて外國品は安くつくから、輸入がし易くなつて來ます。私は今から申して置きますが、假りに

十二月に金解禁をしたら。來年は輸入超過はうんと殖えるのであります。若しさうならなかつたならば。是は財界の萎靡であり。日本の購買力の減退であります。それは經濟界が不景氣の爲に減つて來るので。さうなれば又輸出も減つて來るのであります。

又、物價が下つたと云ふ事を政府の政策の結果であるやうに申して居りますが、是も下るのが當然であります。政府が財政を緊縮し、地方自治團體の財政も緊縮せしめ、之を模範として國民一般に消費節約を宣傳する、而して其消費節約は目的でなくして手段である。何が目的であるかと言ふと、物價を引下げる事が目的で、物價を引下げてさうして輸入を防がなければならぬと云ふ意見であります。即ち物價を下げると云ふ事が目的であつて、其目的でうんと消費節約を宣傳するのでありますから、茲に經濟界に非常なシヨツクを與へる事になります。物價を下げると云へば、物價先安といふことになる。物價先安を見越すと、誰でも持つて居る物は手放す、仕入れは見合せると云ふ事になる。小賣商人は自分の持つて居る物を成るべく手放して損して

も賣らうとする、さうして仕入れ元へ對しては成るべく注文を見合すやうにする。問屋も卸賣屋も持つて居る物は早く手放して賣つてしまふやうにして、製造元に向つて注文は成るべく手控へる。製造元は又、自分の持つて居るストックを全部藏拂ひをする。かういふ譯でありますから物價が合理的に下るのではなくして皆止を得ず損をして泣く／＼下げさせられるのである。斯う云ふ事になつて物價を下げると云ふ事は經濟界に打撃を與へると云ふ事になつて、決して健全なり方ではない。それを政府の政策宜しきを得たから、海外の信用が高まつて、どん／＼爲替が上つて來る、一方には輸入超過は減つて來る、物價は下つて來だ、此勢ひなら政府の豫期したより以上に金解禁の準備が進行したから、割合早く解禁が出来るかも知れないと云ふ事を政府は言つて居るのでありますが、是は何人が考へて見ても間違ひだと云ふ事が分ると思ひます。

それから金解禁問題に關聯して、此頃二つの議論があります。第一は、金解禁を今直ぐにやると云ふことが出来ないならば、期限を附けたらどうかと

いふ議論であります。是は元からあつた議論であります。例へば茲に一年なら一年と期限を附ける。來年の六月なら六月、七月なら七月に金解禁をする。と云ふ事を政府は聲明するのであります。何時解禁するか分らぬと云ふので色々迷ふのであるから目標を定めて安心して用意せしむるが良いと云ふのであります。是は爲替が四十四弗とか四十五弗といふやうな低い場合には出來ない話であります。と言ふのは、假に一箇年後に解禁することに決めますと、それで以て算盤を採つて、其處に思惑が行はれて爲替の急騰を引起すからであります。然しながら昨今のやうに四十七弗近く迄來て居ると、其餘地がない。一年先きに金解禁になつて爲替が四十九弗三十四五仙になるとしても、四十七八弗迄來て居ると、此處で金を借りて圓を買つて置いては引合はぬ、一年に五分か四分にしかつかぬから、亞米利加の高い金利で金を借りて之を買つて置いては引合はぬのであります。そこで此期限附きの解禁と云ふものが今日の場合に於ては一番穩健な方法であらうと思ひます。けれども大藏大臣は期限附きと云ふ事は絶対にいかぬと云ふことを強く主張して

居るから、今更其主張を變更することは出来ずまい。其次は平價切下げであります。之に就て段々パンフレットにも書き、本を著す人もあり、随分論じて居りますが、此平價切下げ論と云ふものは、爲貨が四十五弗なら四十五弗と云ふ事は、詰り日本の圓の對外價值が平價よりも低くなつて居るのであつて、外國の品物を買ふにしても、百圓が四十九弗半にならぬ、四十五弗にしかならぬ。そこで貨幣を變へて、二匁十圓の金を爲替の差額だけ分量を減じてさうしてやれば、金解禁をしても少しも打撃を受けないと云ふ議論であります。所が、是は先刻申すやうに、獨逸は固よりであります。佛蘭西とか、白耳義とか、伊太利のやうに非常に爲替相場が下つて平價には恢復の見込みの無いと云ふ場合、國民全體が諦めた場合ならば實行が容易であります。が、もう少し待てば爲替が四十九弗に上ると云ふ場合にやる事は、到底困難であると思ひます。それから又、總ての人の財産の上に非常な影響が來ます。即ち債務者が得をして、債権者は損をすることになります。百圓の金を銀行に預けた。所が其百圓と云ふものは二匁十圓の金の積りで預けたのに、貨幣

を變へて二匁足らずのものを十圓にすると云ふ事になるから、そこで損をすると云ふ勘定になるのであります。此平價切下げ論と云ふ事は實行上非常に難しい問題であります。

それから、政府は財政を緊縮して、國民の消費を節約せしめる、是が金解禁の一番の準備であるといふことを高唱して居りますが、是は私は根柢から間違つて居ると思ふ。政府の言ふ所に依ると、今緊縮をすると云ふ事は伸びんが爲に縮むのである。暫く我慢して居りさへすれば、是が爲に金解禁は行はれ、さうして貿易が好轉して財界は恢復するといふことになるのであります。而して經濟上の事を能く知らない者は政府はさう云ふ事を能く知つて居るのだから多分さういふ譯のものであらうと云ふ感じを持つて居るやうであります。日本の國民は經濟知識が大變乏しいものでありますから、唯傳統的の思想から抽象的に考へて消費節約をする事は何より良い事だ、又政府は今まで無暗に借金をして居るのを大に儉約して返して行くと云ふのだから、誠に結構なことであるといふ一面觀に酔はされて居る人が少くない、殊に社會

に活動して居ない人にさういふ人が多いのであります。併し經濟問題は左様に簡單なものではない。政府の緊縮論を是なりとする者は先づ斯う云ふ事を是認した譯であります。國民舉つて消費節約すると物價が下る、物價が下れば、日本の生産費が下る。生産費が下れば輸出は便利だ、輸入は防げる、貿易上のバランスは取れると斯う云ふ事になる。もう一つは斯う云ふ事を是認して居る。——國民舉つて消費節約をすれば、消費節約したゞけそれだけ金が貯まる、且つ消費節約したゞけそれだけ外國に賣れるといふのである。それが是認せられなければ此議論は成立たない。即ち言ひ換へて見ると、消費節約をすれば、生産は減らずして、消費だけが減つて、其の餘し得たものが大體外國へ賣れると云ふ事になればさう云ふ事は言へます。

所が經濟現象はさう云ふものではありません。消費が減れば、同時に生産も減る。生産が減れば、取引も減る。それであるから消費減少の結果として生産者も取引商人も儲からない。そうして遂に日本國民全體の收入が減ると云ふ事になる。先づ國民が消費節約をしても、海外へ賣りやうがない物が澤山

ある。例へば味噌醬油や、日本酒や野菜や鮮魚といったやうな物は節約しても輸出には向かないから結局それだけ生産を減す外に仕方がない。昔和蘭人が長崎へ澤山チーズを持つて來た。所が是が日本に賣れると思つたが一つも賣れぬ。日本であんな臭い物を食ふ奴はないと云ふので、捨て、しまつた。鯉節や味噌醬油を持つて行つた所で、何處にも賣れやうはない。さう云ふ事で生産が減つて來る。然らば輸出品の大宗たる生絲の如きものはどうか、皆が互ひに協力して消費節約して絹織物を着ることを成るべく少くする。さうすればどうなるか、現在外國へ賣れて居る生絲及び絹織物の數量に節約したゞけの數量が加はるか云ふと、さうではない。亞米利加では日本の生絲を買ふのは向ふで必要なだけ買つて居るので、若し向ふで必要があるのに品不足であると云ふならば相場が上つて來る譯である。然るに近頃は千三百圓所の相場に釘附けになつて居るのは、大體から消費する必要量だけ買つて居るといふことが分る。だから、是からどん／＼人口が殖えて來て經濟が發展すれば別問題であります。日本の國民が絹織物を成るべく着ないやうにすると

亞米利加へ行く生絲及び絹織物は増加せずして、生産量は減ることになる。さうすると養蠶の設備も、製絲の釜數も、投下資本も同じであつて、さうして内地で節約したゞけ全體の生産量は減る。生産量が減れば、一俵當り單價は高くなる。單價を高くしては賣れないから、結局利益が少くなるといふことになるのであります。

今日は總て大量生産をして、成るべく生産に就ての無駄を省いて、能率を増進し、技術を熟練し、良品を製造して、之を賣つて行くと云ふ事が經濟の要諦であります。それを緊縮節約して、消費を減じて、物價を下げて、貿易の發展をしやうと云ふのであるが、是は詰り全體の收入を減じて、日本の經濟界を小さくする事になるのであります。一見良策のやうに見えるが其の實は經濟縮小策に過ぎない。今日世界各国でそんな議論をして居る國はありませぬ。先刻も申す通り、英吉利などは金利が高くなつて、通貨が縮小して物價が下るから困ると云ふて非常に心配して居るやうな次第であります。亞米利加などでも消費節約と云ふことを宣傳して居るのではない。フーヴァー

氏などが宣傳したのは、所謂無駄退治である。それは個人の經濟よりも主として、工場經營に就て浪費があるから、之を成るべく少くして生産費を安くしやうぢやないかと云ふのであります。固より奢侈浪費は一種の罪惡であつて何れの時でも之を戒めねばならぬ。殊に事業の經營に於て冗費をはぶいて出来るだけ生産費を低下することは事業家の不斷に留意する所でなければならぬ。然しながら唯消費節約すれば生産に影響なくして節約したゞけ金が貯まると考へるのは經濟上の事を能く知らぬお爺さんやお婆さんの事である。今日の場合には經濟界は不況の時代であつて國民の大多數は節約の餘地などはないのである。井上藏相の如きは國民は總て收入以上の生活をして居ると見るのであるがそれは唯少數の上流階級のみを見て世間多數の事情に通ぜないものであると思ひます。今日の如き經濟情態の下に於て爲政家が財界の不況を盛大に宣傳して國民を悲觀せしめるといふが如きは甚だ事宜に適せないものと思ふ。故に消費節約を宣傳すると云ふ事は、金解禁の準備に非ずして、金解禁の必然的打撃の上に更に人爲的打撃を加へる結果になるのであります。先

刻申す通りに、金解禁をすれば、當然爲替のマーヂンだけ外國の品物が安く入つて来る、さうして日本の製造工業が押へられる。其上に正貨が流れ出るから、金融が逼迫して金利が高くなる。金利が高くなれば、有價證券は下る。是が爲に蒙る事業の打撃は非常なものであつて、是が恐ろしいのであります。其處へ持つて来て、經濟事情を知らぬ人は是は大變だと云ふので、人氣作用が更に加はる。是だけで以て非常に金解禁に對して恐れをなし居る所へ、消費節約をしなければ經濟は大變だと言つて鐘を鳴らして歩きますから、國民は萎縮してしまふ。又物價は先安と云ふ事になりますから、取引が止まつて金解禁以外に財界の不況を益大ならしむるの原因を爲すのであります。政府並に自治團體の財政上の緊縮に依つて失業者を生ずると云ふ事は無論であります。それが、それより一般の經濟界の打撃より起る結果が一層大きいのであります。

金解禁の打撃は當然相當強い程度に來るのでありますから、之に對しては成るべく國民に悲觀せしめぬやうにして人氣の上の打撃と云ふものを成るべ

く少くする様にしなければならぬ。又實際の情況はさう悲觀する必要はないのであります。貿易は段々良くなつて來つゝある。それから各工場を見ますと、是迄成立して居る所の事業會社と云ふものは皆良くなりつゝある。悪くなりつゝあるのは殆どありません。一昨年の金融恐慌の後の整理に依りまして、會社の基礎が相當健全に立直つて居ります。それから經濟界の不景氣の底に陥つた結果として互ひに奮勵努力したものでありませうが、近頃は非常に能率が増進しまして、生産費も低下して居ります。船會社にしても、大抵のドツクは注文いっぱい持つて居る。製鐵事業の如きは非常なる進歩で、大抵な製鐵會社はとんぐ引合つて行く。鐵の中でも川崎の製鐵部の如きは薄板が非常に高く賣れる。神戸製鋼所も整理したのでありますが、其處で丸棒即ちラウンド・バアが高く賣れるので近頃は非常に喜んで居たのである。八幡の製鐵所では昭和三年度に千六百萬圓程利益があつた。斯う云ふやうに段々良くなつて居る。紡績にしても、深夜業廢止と云ふ事が多年の懸案であつたけれども、本年七月に之を實行したが、何でもなほそれ程に進んで來て居る。

捺染工業を見ても然り。毛織工業を見ても亦然りであります。斯う云ふ風に何も悲觀する事はない。今年の上半期の貿易を見ても、輸出金高は近年になり多額に上つて居る。此状態で行けば、來年はもつと良くなるやうになつて居るのでありますから、斯う云ふ事實を材料にして、國民に安心を與へて、金解禁に依る人氣の打撃を出来るだけ緩和しなければならぬのであります。然るに今日は經濟國難ぢやないかと言つて國民を威嚇して財界を萎縮せしめ、金解禁の當然受くべき打撃の上に、商取引の機關の運轉を止めてしまつて、さうして經濟界を不景氣に導いて居るのであります。

それから尙ほ序でに申して置きますが、財政上の問題として、井上君の頻りに講演或はパンフレットに於て述べて居る所を見ますと、日本の國は段々に歳入は減つて居る。歳入は減つて居るに拘らず、歳出は膨脹して居る。と云ふ事を言つて、例へば大正十一年に二十一億圓近くの収入があつたのか、本年の豫算を見ると十七億七千萬圓で、是は九千百萬圓と云ふ公債募集金を加へ、それから剩餘金などを入れて十七億七千萬圓になつて居るが、之を差

引くと十六億圓位の収入だ。二十一億圓の収入が十六億圓に減つて居るに拘らず、歳計は却つて大正十一年より膨脹して居ると言つて夫れを根本として財政の緊縮消費の節約を高調して居るのであります。この點については私が先日本部で話したので、新聞でも御覽下さつた事と思ひますが、全然決算の見方を間違へて居るのであります。大正十一年度の決算を見れば總歳入が二十一億近くになつたのは其通りであります。それは其の前數年間に出て來た剩餘金——剩餘金は翌年度に使用せずして後年度の財政計畫の財源補填に當てる爲に留保してある、それを計算したものが一遍々々決算に出て來る而して大正十一度の決算には五億七千五百萬圓と云ふ前に蓄つて居る剩餘金を加算して二十一億になつて居る。然るに昭和四年度の方は豫算でありますから此剩餘金を見て居ないのであります。さう云ふものを差引いて見ますと、毎年國庫の収入は殖えて居る。殖え方は鈍くなつて居るけれども殖えて居るのが事實であります。又急激に大正六年、七年、八年のやうな膨脹がある筈はない。それを二十一億圓近くあつた収入が十六億圓に減つて居るのに歳計は

却つて膨脹して居ると云ふ事を言つて居る。是は井上君が決算の見方をよく知らない爲めに間違つたのであらうと思ひます。

もう一つは、誰れでも言ふのでありますが、大阪邊へ行くと、頻りに實業家などが言ふのであります、どうも亞米利加や英吉利などは思ひ切つて財政を緊縮したのに、日本は財政は膨脹するばかりだ、是は一つ思ひ切つて緊縮したらどうであるかと云ふ事を言ひます。矢張り是は井上君が言つて居るので、世界各国は金の解禁の準備として、第一財政の大緊縮を圖り、國民に思ひ切つた消費節約を奨励し、之に依つて金を解禁した、吾々は丁度今世界のやつた定石をやるのであると云ふ事を言つて居ります。所が英吉利や亞米利加が、財政を緊縮したと云ふのは戦時の財政を平時の財政に直したのであります。英吉利では、歐洲戦争の始まる前年の豫算と云ふものは二億磅に足らなかつた、日本の二十億に足らなかつたのであるが、一時は三十億磅、即ち三百億圓、十五倍近くになつた。其十五倍近くになつたものを減したのである。英吉利は初めは成るべく租税の負擔に依つて戦費を賄ふ事にして、公債を成

るべく募らぬ方針だつた。所がそれが爲に非常に國民の負擔を重くし、一年に四度も五度も増税して、其上に己むを得ず公債を發行したから、公債は戦前の七億磅一時は七十四億磅に達した。亞米利加も略々同様であります。さう云ふ譯でありますから、唯戦時の財政を縮めたゞけであります。戦時の財政を縮めなければ立行く譯はない。さうして今はどうかと申しますと、英吉利の財政を見ますれば、勿論歐洲戦争の爲に、借金が非常に殖えましたから此元利拂ひが巨額に上るので己むを得ないのであります。矢張り相當の増税を續け、さうして今は八億四千萬磅餘になつて居ります。即ち戦前の四倍よりも尙多い。亞米利加は五倍近くなつて居ります。而して貿易の状態はどうかと申しますと、英吉利の貿易中輸出金高は戦前に比して三割五六分しか殖えて居らぬ。然るに物價は戦前に比して四割四五分高いのであります。さうすると戦前よりは貿易額が減じた譯である。それにも拘らず國家の歳計は四倍以上になつて居る。日本はどうかと申しますと、日本の輸出金高は戦前の前年には六億五千萬圓であつたものが、今日では二十一億圓になつて、三

倍六七割進んで居る。然るに財政はどうかと云ふと、三倍には足りないの
 あります。而かも近頃急に殖えたのは、大正十二年の大震災と一昨年
 の金融恐慌の爲であります。それ等の關係の費用を差引きますと十六億圓から切れるので、戦前に比べて二倍五六割にしか當つて居ないのである。それを日本の財政のみが如何にも膨脹して居るかの如くに政府が言ふのであります。又經濟も財政も何も知らぬ人が皆之を眞似て哇鳴蟬噪して居る。新聞などを見ましても、それを事實と信じて居る、雜誌などを見ても、日本のみが財政が膨脹して居ると思つて居る人が多いやうであります。大變な間違ひであります。先達て私は紐育の財政を見ました所が紐育の千九百二十七年の財政は日本の二十億圓程になつて居りまして、其の歳入には多額の公債収入を見込んであつたやうであります。日本の一般會計の財政全體は紐育の財政よりも小さい。亞米利加なども中央政府の方は戦争の爲に大變に財政が膨脹したので戦後に於て相當に減少して居るがそれでも戦前の五倍になつて居ります。地方はどうかと申しますと、各ステート、ステートの下の市町村は私は詳し

い事は知りませぬけれども、亞米利加の大藏次官がプリンストン大學へ行つて講演したのを見ますと、最近五箇年間に中央政府の國税は三割減ぜられたに拘らず、其反對に地方税は六割増税になつて居ると述べてあります。それは地方は戦争に關係ないが、中央政府の方は減税すると云ふ事は、一時戦争の爲に増税して居つたのを減したに過ぎないのであります。さう云ふ事情を詳しく研究せずして、唯數字だけを見て直ぐ之を非難の種に使ふのは日本人の癖である。亞米利加が斯うしたから直ぐ其通りにやらうと云ふ英吉利があつたからそれを検討せずして直ちに學べと云ふ、まだ日本人は自ら悔る所があります。明治十七八年歐米崇拜熱の盛んであつた頃は議論をするのに、何でも構はぬ出たら目に西洋人の名を言へば相手が降参したベルモット氏は斯う言つて居るとか、ビンヘット氏の説はかうだといふ風に言へば議論の結末がついたといふことである。然ると今日でも尙何でも亞米利加は斯うやつた。英吉利ではあつたといふ事と云ふ事を言つて、どういふ事情の下にさうやつたかと云ふ事を考へない人が多いのであります。

もう一つは、是は濱口君も言つて居りますが、井上君の議論に従へば、政府の財政を見ても、地方の財政を見ても、個人の生計を見ても、歳入は足りない。歳入が足りないのを借金して歳出入の收支を埋合せて居る。現に昭和四年度の豫算を見ても、九千百萬圓と云ふ借金をして漸く歳入歳出の收支を合せて居る。斯う云ふ不都合な財政を立直すのだ、個人もさうしなければならぬと言つて居る。所が、國の財政の九千百萬圓の公債と云ふものは何かと言ふと、震災復舊費の財源である。震災復舊費と云ふものは、何百年目に起るか分らぬやうな大災害に基づく費用でその復舊の爲に一時借金をして之をやると云ふ事は當然である。何でも普通財源で全部支辨しなければならぬと云ふ事になつたら、帝都復興は出来ない、現に今の帝都復興計畫と云ふものは、井上君が震災當時の大藏大臣として、之を全部借入金に依つてやる計畫を立て、居る。さう云ふ性質のものまで借金をしてはいかぬと云ふ事になつて來ると其議論で行くならば、まだ國の方は宜しいけれども、府縣市町村はどうしたら宜いか、借金をして財政の收支を合せるのは不都合であると云ふ事になつ

たら、河川の改修とか港灣の修築とか學校の増築といふやうな事業はどうして遂行する積であらうか。我々は斯の如き一時に多額の財源を要する自治團體の事業は到底一時に普通財源を以て支辨することは出来ないから、借入金若くて地方債を起して之を濟し崩しに拂ふより仕方がない場合が多いと考へて居る。それはいかぬと云ふ事になると、治水港灣などの事業と云ふものは國が全額を補助するより外に出来ないことになるが左様なことは不可能であるから結局河川改修とか港灣修築といふやうなものは全部廢めなければならぬ、さうなれば地方の開発産業の振興、地方民の福利増進といふことは多く望めないことになりませう。さうすると日本人は唯じつとして小さくなつて居るより仕方がありません。人口は殖えて來る。さうして産業の發展の基礎事業は普通財源でなければやれぬと云ふ事になりますと、國家の前途はどうなりませうか。佛蘭西のやうな人口の減る、若くは増さぬ國ならまだ宜しいかも知れませぬが、一年に八十萬人も人口が殖えて來るやうな日本に於きましては、どうして立つて行くことが出來ませうか。是等の事については私は

根本から考へが違ふのであります。
 以上金解禁問題を中心として、思ひつき思ひつき取り交せて、諸君が是から方々へ行つて説明せられるのに御参考になるやうな基礎的の意見だけを申上げたのであります。長い間の御清聴をいただきましたが、尙ほ御質問に應じて何でもお答へ申し上げます。

昭和四年九月廿三日印刷
 昭和四年九月廿五日發行

(非賣品)

不許
 複製

著者 月 曜 會
 發行者 大 谷 茂 平
東京市本郷區駒込保町一八二
 印刷者 太 田 米 吉
東京市神田區錦町三ノ五
 印刷所 太田印刷所
會社名

發行所

東京市麹町區内幸町一ノ三
 大阪ビルヂング六階

月曜會事務所

終

